

## 第4節 現状と今後の課題

教育学研究科・教育学部はその教育理念として、教育に関する専門的知識と技能を備え、現代社会が抱える問題を把握し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進する人材を養成することを掲げている。つまり、教育という視点から社会を分析し、その結果に基づいて新たな社会を作り出していくリーダー的人材の養成を目標としている。こうした人材を育成するための学生支援体制の強化をめざし、対策を講じてきた。

近年特に課題となっているのは、学生、大学院生が経済的不安を感じることなく学業に専念できる環境を整えること、およびグローバル化への対応である。本研究科、学部ではこれらの課題に対し、奨学金制度や授業料の減免等といった一般的な支援策を充実させるほか、尾形尚子奨学基金国際交流活動経費援助事業による海外留学への支援、東北大学教育学部同窓会から拠出された基金をもとに行われる海外発表渡航費支援事業による海外学会等での発表の支援などを行うことで、両課題に合わせて対応する取り組みを充実させてきた。博士学位授与率の向上のための取り組みにおいても、大学院生プロジェクト型共同研究支援事業による研究補助金の支給など、研究指導とそのため資金の支援をあわせて行う取り組みがなされてきている。学生、大学院生への経済的支援、グローバル化への対応、学位授与率の向上といった個々の課題に対する個別的な取り組みを充実させるとともに、それらを複合的に組み合わせた取り組みを行ってきた点に、本研究科、学部の特徴がある。

このように、創意ある多様な取り組みがなされ、「アジア共同学位開発プロジェクト」を軸としたグローバル化の着実な進展など、注目すべき教育上の成果を着実に生み出している一方で、博士学位の授与率の停滞など、必ずしも十分な成果を得るまでに至っていない課題も残っている。課題への取り組みを進めるにあたって、これまでの本研究科、学部の教育上の成果をどのように生かしていくかが問われていると言えるだろう。